

欧米のアジア進出

1 / 1

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

欧米諸国は、どのようにアジア進出を進めたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 ロシア・アメリカの進出

ロシアとアメリカ

なんかせいさく
南下政策

ロシアが不凍港を求めて南へ勢力を広げた政策。

せいぶかいたく
西部開拓

アメリカが西へ領土を広げた動き。太平洋岸に達した。

ほげいせん
捕鯨船

くじらをとる船。北太平洋で多く活動した。

19世紀、産業革命で力をつけた欧米諸国は、原料と製品を売る市場を求めてアジアへ進出した。ロシアは、冬でも凍らない港(不凍港)を求めて南へ勢力をのぼす南下政策を取り、シベリアから太平洋岸へ進んで、清の北の国境や日本の北方にもせまった。

アメリカは西へ領土を広げる西部開拓を進め、19世紀半ばには太平洋岸に達した。さらに太平洋を横断して清と貿易する航路を開こうとした。蒸気船や、北太平洋で活動する捕鯨船には、燃料の石炭や水・食料を補給する寄港地が必要で、アメリカは日本に目を向けるようになった。

2 アヘン戦争と中国・インド

イギリスの進出

さんかくぼうえき
三角貿易

イギリス・インド・清を結んだ貿易。アヘンを清へ売った。

せんそう
アヘン戦争

1840年に起こった、清とイギリスの戦争。

なんきんじょうやく
南京条約

1842年、アヘン戦争の講和条約。清は香港を譲った。

イギリスは清から茶を大量に輸入し、代金の銀が不足した。そこで、インドで栽培させたアヘンを清へ売る三角貿易を始めた。清がアヘンを厳しく取りしめると、イギリスは1840年にアヘン戦争を起こした。敗れた清は1842年の南京条約で香港を譲り、上海など5港を開いて賠償金を支払った。

清では、重い税に苦しむ農民らが反乱を起こして太平天国という国をつくり、混乱が十数年続いた。インドでは、イギリスの安い綿織物が流れこみ、伝統的な綿織物業が打撃を受けた。1857年にインド大反乱が起こったが、イギリスはこれをおさえてムガル帝国をほろぼし、インドを直接支配する植民地とした。こうしてアジアの国々は、欧米の進出に次々とのみこまれていった。

運んだ道すじ	品物
イギリス → インド	めんおりもの 綿織物
インド → 清	アヘン
清 → イギリス	ちゃ 茶

問いへの答え

ロシアは不凍港を求めて南下政策を取り、アメリカは西部開拓で太平洋岸に達して、清との航路と船の寄港地を求めた。イギリスは三角貿易で清にアヘンを売り、アヘン戦争に勝って南京条約で香港を手に入れた。インドの大反乱もおさえて植民地とし、19世紀半ばには、アジアの広い地域が欧米の勢力にのみこまれていった。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

